# 市政を問う！

令和4年第4回定例会・令和5年第1回定例会

## 代表質疑・議案質疑・一般質問

令和4年 第4回定例会
**12月** 13日 14日 15日 16日

令和5年 第1回定例会
**2月** 28日
**3月** 1日 2日 3日

●議案質疑…
市長に対し議案の内容や提案の理由などについて、疑問の点や不明な点を問うこと。
●一般質問…
議員が本会議で一般事務や将来に対する方針など市政全般について質問すること。

### 結 冨田 薫

**免許返納後も暮らしやすいまちへ**

質問 **現在、実験中のバスとタクシーの中間のような予約型の乗り物「のるーと桑名」。実際の運用をしていく考えはあるのか？**

答弁 ぜひとも、本格実走に向けて推進していきたいと考えているが、利用状況や地域のニーズをしっかりと見極めて、検証も必要とも考えている。

**外国人との共生について**

質問 **文化・生活習慣・マナーを伝える、また生活指導というところまで入り込んでいかないと本当の共生社会は実現できないと考えるが？**

答弁 多文化理解の促進・生活情報など多文化交流イベントなどを実施している。生活習慣や文化・言語の違いなどの問題に対応できるよう、より一層情報発信強化、多文化共生の推進に取り組むとともに、違反行為・迷惑行為には国籍に関わらず庁内関係各部署や警察などと連携し対応していく。

**住宅地に侵入する猿、イノシシ対策は**

質問 **高齢者が近くに住んでいる地区の肝先３ｍまでイノシシが侵入している。市民の生命と財産を守るため、事故になる前に獣害対策を検討すべきと考えるが？**

答弁 団地等の住宅密集地は山林と隣接しており、野生獣による被害防止を求める声は高まっている。今後は自治会等の複数の方々が受益者となる獣害対策補助金や交付金・原材料支給等、他市町の獣害対策も情報収集しながら研究していきたいと考えている。

### 絆 倉田 明子

**市長の施政方針から**

質問 **待ったなしの人口問題に本気で取組む市長の決意は。**

答弁 国の人口は令和５年２月現在、前年度から 57 万人減少。鳥取県の人口 54 万人が消滅するほどの規模で、祭り等伝統行事が途絶える地域があるなど暮らしへの影響がでている。この待ったなしの状況への対応が、桑名市人口減少対策パッケージ “14 万 “リバウンドプランである。行財政改革の成果を活かし、児童手当の所得制限撤廃と対象年齢を高校生まで引上げた桑名市版子ども応援手当、子ども医療費の所得制限撤廃・対象年齢引上げ・窓口無償化など、子育て支援策を拡充し、中部地区で子育てするなら桑名と呼ばれるまちを目指す。人口減少という課題に打ち克ち、次世代への責任をしっかり果たしていく。

**SDGsの取組みについて**

篇 **「サステナ部」創設の狙いは。**

答弁 本市の一人の中学生の「SDGs について現実の問題と向き合って解決したい」という思いを市が受け止めスタートした。特別顧問を市長とし、部長は発案者、部員はこの思いに共感した中学生で、学校区を超えて普段の中学校生活で交流のない中学生がオンラインも活用しながら活動する。第一弾の取組は、経年劣化等で廃棄される東海道新幹線のヘッドレストカバーの有効活用「COVER」プロジェクト。今後、他の社会問題の解決へと展開し、中学生だけでなく様々な分野の学生に部員を広げ、若者が主役の活動を通してサステナブルなまちづくりを目指す。

### 未 来 水谷 憲治

**小中一貫整備事業（今後の課題について）**

質問 **施設分離型の開校は好ましくないというご意見が多いが子どもや地域の声を反映した開校方法となるのか？**

答弁 用地取得に時間を要し発注が遅れた為、令和７年４月を目標としつつ、施設の完成が遅れる可能性を踏まえた開校方法の可能性も示唆していたが、事業者が決定し契約の後には開校時期が見えてくる。これまでに地域や保護者の皆様から様々なご意見を頂いており、今後それらを含めた施設一体型小中一貫校として希望に満ちた開校が出来るよう調整していく。

**ＳＤＧｓへの取組み**

質問 **リサイクル意識の向上と回収された粗大ごみを売却する事への考えは？**

答弁 令和３年度の粗大ごみの回収依頼件数は 14,785 件で、５年前と比べ約 3,000 件増加している。その増加は処理費用の増加にも繋がり粗大ごみの減量や有効活用に向けた取組みが必要と捉えている。３Ｒの意識向上、処分費用や環境負荷の軽減等に有効な手段の一つとして、３月１日よりネット型リユース事業者のリユースプラネットフォーム「おいくら」を利用し、市民とリサイクルショップの間で、売買のマッチングをさせ、単純廃棄ではなく売却という形で不用品のリユースを行う。処分の選択肢が増えることにより粗大ごみの減量、環境への負荷や処分費用の軽減が図られ、ＳＤＧｓの達成に繋がる事を期待する。

### 結 服部 喜幸

**農業振興について**

質問 **水田は食文化上、防災上、景観上、重要な役割を担っている。持続的農業に向けて、地域農業における中心経営体、地域における農業の将来の在り方を明確化した「人・農地プラン」実行への支援をどのように行うのか？**

答弁 三重県等の関係機関と連携し、専門知識を有する者による支援を行っていく。

質問 **農地の適正利用については、断固たる対応が必要！廃棄等置場になっている農地に対して、今後の展開を問う。**

答弁 土地利用の状況等を総合的に考慮し、必要に応じて是正勧告・命令、更には刑事告発など法的対応を検討していく。

**獣害対策について**

質問 **猪、鹿、猿、アライグマ等、有害獣の人間との共存を目指す取り組みは行わないのか？**

答弁 他市町の様々な取り組みを情報収集し、地域の皆様に広めながら、地域協働で獣害対策を推進する。

**AI 活用型オンデマンドバス導入について**

質問 **桑名市南西部において AI 活用型オンデマンドバス「のるーと桑名」の第２回目の実証実験をしているが、今後の取り組みはどうなのか？**

答弁 既存公共交通とのベストミックスによる新たな地域交通体系の構築を目指す。

### 絆 柴田 理恵

**不妊治療について**

篇 **桑名市独自の助成予定と今後の展望について問う。**

答弁 他市の市独自助成制度は承知している。今後本市における市独自の支援については、他市の状況や実績を参考に国、県の補助の動向も含めて検討していく。

再質問 **子育て支援の「桑名市版子ども応援手当」のように、全国の先陣を切って、子育て支援ができる桑名市なら、不妊治療に関しても、市独自制度を他市や国、県の動向を待たずとも進められるのでは？**

再答弁 子育て支援を進める上で、妊娠に向けた準備期間の支援も大切であると認識している。今後どのような支援が必要なのか、状況を鑑みながら進めていく。

**魅力的な桑名駅を目指して**

篇 **桑名駅周辺整備の今後の展望は？**

答弁 東口は、通勤通学等の日常空間とマルシェやイベント、祭りといった非日常空間を併せ持つ居心地よい都市空間となるよう、西口は、駅直近部のポテンシャルを活かせる、魅力的で賑わい溢れる空間になるよう、公民連携等を含めた様々な整備手法の検討を行い、取り組んでいく。

**コミュニティバス（K バス）について**

質問 **現在のルートや時刻表は不便との声があるが、今後の見直し計画は？**

答弁 コミュニティバスの役割は、基幹交通を補完するものと考えている。今後は、AI 活用型オンデマンドバス等の新しい技術を活用することを含め、持続可能な公共交通ネットワークとなるよう検討していく。

### 結 永野 元康

**市の観光施策について**

篇 **観光施策の今後の方向性について。**

答弁 観光は地域経済への波及効果の大きい分野である。国内観光と同様に訪日観光も推進していく。東海道を活かした観光施策として、桑名歴史の案内人の会様に東海道を含めた地図を４ルート作成して頂き、観光客に大変好評を得ている。また近隣市町とも宿場を巡る事業での連携をしている。これから桑名の歴史、水郷等を活かした観光施策を市民、団体、自治会、企業等と連携して事業を進めていく。

篇 **九華公園のトイレ設備充実の考えは。**

答弁 公民連携事業を視野に、サウンディング型市場調査を行ったところであり、今後、九華公園を含む８つの公園のトイレや施設のあり方、管理方法等を検討していく。

**桑名駅周辺エリアの活性化について**

篇 **桑名駅東口及び西口周辺の有効活用について。**

答弁 東口周辺は桑名商工会議所や桑名市観光協会のものと産業振興部との連携で広場の有効活用による賑わい創出の取り組みをしている。西口周辺は地権者の方々が移転して頂く土地や駅西広場、道路等の公共用地のため、イベント等への有効活用は難しい。

篇 **桑名駅西口周辺に街路灯を増設する考えは。**

答弁 駅西の土地区画整理事業は、建物の移転補償を行いながら部分的に整備を進めているため、整備状況を見据えながら、必要な箇所には街路灯を増設する予定。

### フォーラム新桑名 松田 正美

**保存版ハザードマップと避難のあり方について**

質問 **ハザードマップに示されている情報は、現時点での住民の避難に必要な基礎情報である。住民の避難の在り方が簡単にわかるように示すことは、行政に託された重要な役割であると考える。そこで、保存版ハザードマップは絶えず見直されているが、今回の見直しはどういった視点から行うのか。また、個別避難計画策定にどう影響するのか。**

答弁 今回の見直しは、三重県が新たに公表した 12 河川のうち、浸水被害が想定されている河川について、追加版として作成するもの。なお、現在、上下水道部では、内水氾濫にかかる浸水想定区域図の作成にも取り組んでいる。この内水氾濫については、桑名市内で最も発生確率の高い災害として、市民の皆様に認識していただく必要があると考えている。すべての地域で、この浸水想定区域図が完成した後には、桑名市におけるすべてのハザードを網羅した、新たな防災マップの作製に取り組んでいきたいと考えている。

また、個別避難計画作成のあらゆる過程においてハザードマップは重要な役割を果たす。新たに内水氾濫の浸水想定区域図が公表された場合には、個別避難計画への影響はかなり大きくなるものと思われるため、計画への反映についても適切に対応していく。

### 無会派 伊藤 研司

**北勢線の今後…？！**

質問 **桑名市、いなべ市、東員町が北勢線の補助金を拠出しており、その額は令和６年には１億 8,000 万超に。現在の車両は、今後十数年間は修理しながら運行はOKだが、新しい車両への更新は難しいと聞き及んでいる。路線幅の狭いナローゲージの車両は、東京等の鉄道会社からの車両を譲り受けることも難しい。そこで、専用レーンを走る高速輸送システムであるＢＲＴ方式のノンステップバスの導入を提案する。ＢＲＴ方式ならば、運行に関して、今の倍の本数が可能となる。また、ノンステップであることから、高齢者の方々にも優しい。そして、専用路線を走るため、時刻表通りの運航が可能で、ランニングコストも安い。導入について市の見解を問う。**

答弁 特殊狭軌を用いた車両の老朽化に伴う更新を控え、本市としても危機感を持っている。沿線２市１町及び三岐鉄道で構成される北勢線事業運営協議会において、引き続き調査研究していきたいと考えている。

### 結 成田 久美子

**令和４年度一般会計について**

質問 **消防庁舎等再編整備アドバイザリー業務実施事業費の根拠及び妥当性について**

答弁 立体駐車場の事業方式について、民間事業者が建設後、所有権を市に移転し、運営を民間事業者に委ねる方式としたことから、それに係る事業契約書の作成等に必要となるアドバイザリー支援費用を追加したものである。業務内容、業務量から費用は適正だと考えている。

**市民の声から**

篇 **大山田スマートインターチェンジの進捗状況は。**

答弁 企業誘致の促進だけでなく、様々な整備効果を見込むスマートインターチェンジは、現在準備段階の調査を実施していただくよう、国、県など関係機関と協議している。引き続き皆様の期待にお答えするよう事業推進を図っていく。

篇 **帯状疱疹ワクチン接種について費用助成の考えは。**

答弁 高額な接種費用が負担となること、コロナ禍における生活状況から免疫力が低下し、帯状疱疹が増えてきていることも承知している。今後情報収集とともに、費用や効果等総合的に勘案し検討していきたい。

**市内の公園について**

篇 **歴史ある九華公園の維持管理体制と今後の課題は。**

答弁 九華公園は文化的にも重要な施設である為、改修計画も視野に入れる必要があると考えている。今後、さらに魅力ある公園となるよう施設のあり方や、施設運営等を検討していきたい。

### 絆 太田 誠

**ＮＴＮ総合運動公園サッカー場の人工芝の整備**

質問 **サッカー場メイングラウンドの人工芝は、ゴムチップの充填剤が表面に浮いて堆積しており、ゴール付近には人工芝の修復箇所もある。人工芝の更新と設置要望の高い夜間照明について当局の見解を問う。**

答弁 人工芝は８年が経過し、更新時期が迫っている。運動公園には夜間照明設置他、様々な要望を伺っている。ライフサイクルコスト算定調査を行い、補助金活用を含め国内施設整備を順次行う準備をしている。

**ＡＩ活用型オンデマンドバスの普及に向けて**

質問 **新しい公共交通「のるーと桑名」の実証実験がＫバス西部南ルートの一部エリアにおいて行われているが、高齢化が進む多度、長島地域でのオンデマンドバスの積極的な活用について問う。**

答弁 ＡＩ活用型オンデマンドバスは本市にとって新たな取り組みであり、本格実装に向けて慎重な検討が必要である。まずは先行する事業モデルを着実に構築し、そのノウハウを他地域に横展開をしていきたい。

**揖斐川河口周辺の賑わい創出事業について**

質問 **令和３年１０月に揖斐川河口周辺の賑わいづくりを目的に桑名市かわまちづくり協議会を設立された。そこで、市が揖斐川河口周辺のサウンディング型市場調査に期待しているものについて問う。**

答弁 基本的な考え方は、全て提案者の負担で事業を行い、賑わいが一過性に終わることなく、参加者の増加や地域に根付いた事業となり、ひいては、市内への消費喚起に繋がる事業の提案を期待している。

### 未 来 近藤 浩

**「人口減少対策」について**

篇 **14万ワバウンドプランの必要性は。**

答弁 人口減少により、「元気で暮らしやすい桑名」の維持が非常に困難となる。経済活動縮小による税収減、社会保障費増加による行政サービス低下、社会インフラの老朽化や地域交通の縮小などによる生活利便性の低下、空き家の増加や住民組織の担い手不足など、様々な課題が発生し、桑名市発展に強く影響を及ぼすため、しっかりと対策を講じていく。

**「不登校問題」について**

篇 **不登校の児童生徒への対応策は。**

答弁 子どもの思いを十分に尊重しつつ、個々の状況に応じた学びの場の提供をはじめとした支援を行っている。また、保護者に対しても、情報提供や相談の場を設定して不安や悩みの解消に努めている。

**「スタートアップ共創推進事業」について**

篇 **事業のねらいと効果は。**

答弁 スタートアップとの共創推進で市内事業者の新たな収益の柱を創出し、持続可能な経営を支援するとともに桑名市の社会的課題の解決や市民サービスの向上、地域価値の増進を図ることを目的としている。

**「北勢線運営支援事業」について**

篇 **存続に向けた支援継続は。**

答弁 地域の移動手段を将来に渡り確保していくことは非常に重要である。地域に適した移動手段を将来に渡り持続可能なものとしていくには、しっかり調査を行った上で、今後のあり方を検討していく。

その他の議案質疑や一般質問はこちらから視聴できます。ぜひご覧ください。

### フォーラム新桑名 愛敬 重之

**中小企業・小規模企業支援策について**

質問 **桑名市としての理念条例「中小企業・小規模企業振興条例」制定の考えは。**

答弁 市内の事業所のうち 98％強が中小企業・小規模企業が占める本市においては、中小企業・小規模企業の皆様が地域の雇用や経済を支えている重要な存在であるのは間違いない。中小企業・小規模企業を重視し、その振興を推進していくために、早い段階で「中小企業・小規模企業振興条例」が制定できるように取り組んでいく。



※市内の企業様の職場

質問 **BCP（事業継続計画）を策定する上で、高台移転に対する支援は。**

答弁 市内の既存事業者も、桑名市企業等誘致促進条例に該当する移転であれば、条例の規定に基づき、立地奨励金を交付することができる。多度南部地域では現在もユ業団地の造成工事や計画が進められているところであり、企業立地ワンストップ窓口である商工課に相談いただければ、お話を伺った上で、事業者のあっせん、情報提供を行うことは可能なので、お気軽に声がけをいただきたいと考えている。

### 未 来 藤本 直子

**子育て支援について**

質問 **妊婦・18 歳までの子どもがいる家庭の方々が、カードを掲示すると協賛店でお得なサービスが受けられる、子育て家庭応援カード「くわなスクスクカード」が対象者に浸透していないように思われるが、カードの周知方法と今後の方針について問う。**

答弁 市のホームページ・桑名市子育てまっぷに掲載しているほか、出生時の様々な手続きの際に各施設の窓口で案内している。年間約 80 名の申請があり、協賛店は市内 122 店舗。協賛店利用の連携を行っている「三重県子育て家庭応援クーポン」を併せて周知することで広範囲で利用できるようにするとともに、オンラインを活用した申請など、利用者の方々が利用しやすい仕組みとなるように取り組んでいく。

質問 **公立保育所について・各施設の現状と今後の維持管理は？また使用済みおむつの処分について。**

答弁 現在、市内に 8 園ある公立保育所は、長島中部保育所を除いては、設立から 50 年以上経過する建物が多く、施設の老朽化は課題である。必要性、緊急性を考慮し、優先順位をつけながら計画的に修繕を行っているところ。今後については、効果的かつ機能的な保育所のあり方について検討するとともに、子どもたちを安心して預けていただける施設となるよう取り組んでいく。また、おむつの処分については、保護者、保育士双方の負担になっていることは認識している。国の動向に注視しつつ、保護者にとって利用しやすい保育所となるよう、検討を進めていく。

### 未 来 伊藤 知美

**防災拠点施設の斜面崩壊の危険性について**

質問 **劣化した防草シートが時折めくれることがある。その際露わとなる土の状態を見ると、過去に土砂が流出した経緯もあることから、斜面が崩壊する危険性が懸念される。市の見解と対策を問う。**

答弁 近年の大雨により、土砂流出の被害が積み重なってきている。その都度一定の対策を実施してきており、今のところ大量の土砂が敷地外に流出するような事態には至っていない状況。そうした中、防草シートが耐用年数を迎えようとしていることから、市としては斜面保護と防災力の強化の両立を図る方向で改修を検討しており、できる限り早期に対応したいと考えている。

再質問 **周辺住民のみならず、いざ災害が起きた時に市民にとって大変重要な施設でもあることから、「できる限り早く」ではなく、早急に対応すべきではないか。**

再答弁 周辺住民の方々のご心配は理解しており、今後の協議次第ではあるが、補正予算での対応を含め検討していきたいところである。

**誰ひとり取り残さない社会実現のために**

質問 **障がい者等が生きがいを持ち、社会参画できるような農福連携等の施策の推進について問う。**

答弁 現在市では、障害福祉サービス事業所と共催で販売会を実施したり、野菜の販売促進のため側面的な支援を行っている。国や県の事例や効果を参考にしながら、担当部局と連携し農福連携の推進を図っていきたいと考えている。

### 公明党桑名市議員団 畑 紀子

**地域防災力の強化について**

質問 **本市における防災対策はソフト面・ハード面ともに取り組みが進んでいるが、今後は地域防災力強化も必要と思われる。公助・共助ともに防災力を強化し、災害時にはわが地域を守れる人材を育成するためにも専門的知識を学ぶ防災士が必要と思うが、防災士資格取得についての市の考えを問う。**

答弁 市が自主防災組織の機能強化を目的に交付している補助金について、今後そのメニューに地域の防災力向上に資する防災士資格取得のための経費を加えることを検討したいと考えている。

**「書かない窓口」の導入について**

質問 **住民が申請書に記入することなく住民票などの交付ができ所で受けられるワンストップ窓口の「書かない窓口」は、手続きが簡単になって業務時間の削減にもつながると、利用者からも好評で、住民と行政の双方がデジタル化のメリットを実感できる。この「書かない窓口」の導入について問う。**

答弁 現在、市として「書かない窓口」に関する勉強会を始めたところ。今後は、窓口業務フローを検証し、課題の洗い出しとその解決方法の検討を行う、いわゆる BPR（ビジネスプロセス・リエンジニアリング）を実施し、窓口の業務フローを根本的に見直す作業を行っていきたいと考えている。BPR を実施の上、「書かない、待たない、回らない」窓口の構築を目指していく。

### 無会派 伊藤 恵一

**なるたか市長も後１年半で引退か!?ご苦労様でした**

質問 **「福島県佐藤前知事は５期 18 年、政官業のユ着にまみれ、収ワイ容疑で逮捕。絶対権力は腐敗する。**
**３期 12 年の弊害は現在の桑名市政に当てはまらないと言えるのか」以上 08 年当時市議の伊藤市長の水谷元市長に対する質問を引用し、質問とさせて頂く。**

答弁 選挙の都度、有権者の判断によるものと考える。

**中学校数地内へプール無、体育館・運動場は各１つ**

質問 **在良、益生、大山田東・西・南・北、桑部、修徳、城東、城南、精義、大成、大和、長島中部・北部・伊曽島、七和、深谷、藤が丘、星見ヶ丘、日進、立教の全ての小学校をブッブブシテム中一貫校を全市で造るというが。**

答弁 現在市民アンケートを実施。施設一体型を進める。

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

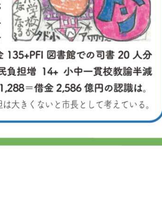
**ズイ意契約とは。**

答弁 プロポーザル方式は効果的である。

**水谷元市長時代 2012 年 1,447 億円の 1.78 倍の借金増!!**

質問 **21 年度末市債元金＋利子＋債務＋外郭団体の合計 1,419（億円）-貯金 135+PFI 図書館での可書 20 人分知的財産消失で市民負担増 14+ 小中一貫校数論半減で小中学生負担増 1,288＝借金 2,586 億円の認識は。**

答弁 市債に伴う将来負担は大きくないと市長として考えている。



### 結 渡辺 仁美

**不登校児童・生徒に対する取り組みは**

篇 **桑名市内の状況は。**

答弁 本市における不登校児童・生徒の数は、小・中学校とも増加の傾向を示しており、ここ数年で最も高い数値となっている。

質問 **不登校児童・生徒を受け入れる施設、桑名市教育支援センター「ふれあい教室」の定員が足りない。増設予定は。**

答弁 「ふれあい教室」への相談や見学の件数は昨年比約３倍に増えており、今後さらに高まることが予想されている。教室を増設することは多様なニーズに応えるために大変有効だが、人員や施設確保の視点から増設など早急な対応は難しい。

質問 **不登校児童・生徒が平日に利用できる「子どもの居場所」の増設は。**

答弁 子どもの居場所づくりに取り組んでいるが、平日昼間に開催している所は限られることから、教育委員会と情報共有を図りながら引き続き協議していく。

**「保育園落ちた」の解消のために**

篇 **保育士など子どものケアスタッフの確保策は。**

答弁 園の定員により希望する保育園には入れない状況がある中、定員の見直しなど受け入れ枠の確保と共に保育士の確保にも取り組んでいる。市では、短大が行っているワーキングスタディ制度を活用し、免許取得後専攻科にすすんだ学生が働きながら実習しているほか、保育士の資格取得に対して修学資金貸付制度を実施している。

### 日本共産党桑名市議団 多屋 真美

**リニア中央新幹線について**

質問 **桑名市も通る予定であるリニア中央新幹線の、市への影響と、市民の不安への対応はどうか。**

答弁 リニア開業により、本市の地理的優位性はさらに向上し、居住人口の増加や、にぎわい創出などが期待される。JR 東海が 2023 年からの環境影響評価着手に向け、準備調査を行っており、ルートの選定は環境影響評価によって絞り込まれるが、その時期は未定である。県下市町加盟のリニア中央新幹線建設促進期成同盟会体と連携し、状況の把握に努めていく。

**多度地区小中一貫校整備事業について**

質問 **多度中小学校に小学校４校を統合し、段階的な小中一貫校の開校となるとの話が、令和４年２月にされたが、保護者・地域の方に、計画変更の説明はしたのか。**

答弁 昨年度末の段階では、計画が見通せない状況であったため、段階的開校も視野に入れていた。その後事業者との契約締結により、令和８年４月に新校舎での小中一貫校開校となった。ホームページ、かわら版、開校準備委員会などで説明している。

篇 **今後、説明会、協議の場を持つ予定は。**

再答弁 進捗状況については、かわら版、ホームページ等を活用し、適宜地域の皆様に情報発信を行うとともに、進捗段階に応じ、説明会等の開催を予定している。

### 絆 森下 幸泰

**持続可能な地域経済圏の形成のために**

質問 **持続可能な地域経済の発展のためには、新たに誘致した企業と元々の地場産業との取引が生まれるなど、地域内での経済循環が促進されることが必要であり、かつ、そういった施策と合わせて、生産年齢人口の確保が必要である。人を呼び込むためには「桑名に住んでよかった」「桑名で子育てしてよかった」「老後も桑名で済んでいきたい」と思ってもらえるような施策が必要だがどのように考えているか？**

答弁 生産年齢人口の増加・税収の増加を図ることは、より充実したまちづくりへの投資となり、さらなる人口増・税収増加へとつながる。

そこで、市長として、人口減少という難問に“あらゆる手立て”を講じるという強い決意のもと「人口減少対策パッケージ “１４万リバウンドプラン”」を打ち出した。

総合計画を推進し、人口減少対策パッケージの各フェーズに応じた施策を実施していくことで、人材確保といった問題を含めた人口減少という難問に打ち克ち、「桑名に住みたい・住んでよかった・住み続けたい」と共感してもらえるようなまちづくりを進めていく。

### 結 市野 修平

**第三者評価による歳出の抑制**

質問 **今後の社会保障関係費等の増大も見据え、更なる歳出の抑制に取り組む必要がある。内部評価だけでなく、独立した外部評価機関による事務事業評価を取り入れてはどうか。**

答弁 現時点で第三者から意見をいただく取り組みは行っていないが、行政改革推進委員会の中で、外部有識者から頂いた意見を予算編成の参考にしている。

**学校給食無償化の考えは**

質問 **子育てしやすいまちを実現するのに、学校給食無償化が有効的な一手と考える。国の動向を見ながら財源を捻出し、独自施策として無償化を検討してはどうか。**

答弁 給食無償化には多額の費用を要する。公立小学校で年間約３億９千万円、公立中学校で約２億２千万円、公立幼稚園で約１千万円を見込んでおり、現時点では大変困難であると考えている。

**公共施設の有効活用**

質問 **人口減少や施設の老朽化を迎え、公共施設マネジメントは重要な政策課題である。有効活用に向けた民間事業者との対話状況と今後の取り組みは。**

答弁 民間事業者との対話の結果、コンビニエンスストアや民間駐車場への貸付契約などに至っている。更なる対話の活性化に向けて、自治体と民間事業者をつなぐプラットフォームへの掲載なども実施している。

### フォーラム新桑名 伊藤 真人

**新公共施設予約システムについて**

質問 **利用者からは「団体登録と個人登録の扱いが同じである」「一団体の代表で登録すると他団体の代表では登録できない」「講師を要するような教室は、抽選で当たるかどうかわからないため、予定が立たない」「領収書が利用ごとになり、月単位で発行されるようになった」「施設によっては仮予約か本予約かわからない」「予約できない日の理由を明記してほしい」などの意見があり、旧システムより課題が増えたのではないか。早急に改善すべきではないのか。**

答弁 システムの更新をしたことで、旧システムでの課題を解決したとするのではなく、各施設の利用状況や利用者の活動内容などを調査している。文化やスポーツの振興が図れる施設の予約方法について、引き続き検討していく。

再質問 **利用者はそんなのんきなことは言っていられない。早急な対応を求めるが、当局の見解は。**

再答弁 そのようなご意見があることは承知しているが、今後検討して改善につなげていきたい。

### 参政党桑名市議員団 近藤 奈歩

**桑名市独自の減税をする考えはないのか？**

質問 **減税は、桑名市の宣伝効果にもつながり、何より桑名市民に喜んでいただける。地方交付税への影響もあり、すぐに行う事は難しいのはわかっているが、専門家を集めてプランを立て、将来的に桑名市独自の減税を行う考えはないか。**

答弁 減税については、税財源が細小し、財政基盤が脆弱となる恐れもあり、将来的な公共サービスに影響を与えかねないことも想定され、慎重な検討が必要。税財源は堅持した上で、工夫をこらした施策も柔軟に取り入れながら、持続可能なまちづくりを進める。

**学校でのマスク自由化、児童・生徒への説明は？**

質問 **学校におけるマスク着用の見直しは令和５年４月からとの事で、令和５年３月時点でもマスク着用は任意・お願いであり、強制ではないため、児童・生徒が混乱することが予想される。マスクを外した人を、外したくない人が攻撃した差別したりする事のないよう、またマスクを外したくない人に向かって外すよう強要することがないよう、学校から児童・生徒へどのように説明するのか。**

答弁 今後、文部科学省より「マスクの着用を求めないことを基本とする」通知が出される予定である。少しずつ日常を取り戻すよう努め、その際には個々の考え方の違いの大きさを踏まえ、マスク脱着の主体的な選択の尊重やマスク着用の有無による諸問題や偏見差別につながる行為の防止にも努める。

### 無会派 飯田 尚人

**桑名市の高齢者への政策とその考え方は**

質問 **桑名市の昨年末の全人口 139,563 人中 70 才以上の方々は実に 30,053 人となっている。その割合は 21.5％で約５人に １ 人が高齢者である。今後の桑名を考えれば子供達への政策は絶対に必要不可欠な政策。しかし、今日までの桑名市を支えて来られたのは、その高齢者と言われる方々である。そこで高齢者に対する今後の政策との考え方について問う。**

答弁 「地域包括ケアシステム」を活用し高齢者向け事業を全庁挙げて取り組んでいる。例えば本年度は、運転免許証自主返納支援、特殊詐欺被害防止機器貸出事業や機器購入補助金事業、IOT による一人暮らし見守り機器導入事業等リニューアルスタートしたところ。防災では、高齢者等自らの力だけでは避難が困難な方のため、個別避難計画の作成を進めている。

篇 **今後地域包括ケアシステムを運用するための方策は。**

再答弁 高齢者の相談については、保健・福祉の専門職を地域包括支援センターに集約し対応している。高齢者宅を訪問し、介護認定申請の支援やプランの作成、要支援等の認定が決定したら、在宅での機能回復訓練や日常生活の支援サービス等も行っている。そのほか、住み慣れた地域で住み続けられるよう、在宅で医療が受けられる体制づくりも進めていく。